

名古屋テレビ塔の新たな旅立ち

ーランドマークとしてのこれまでとこれからー



内藤多仲博士(1886年-1970年)



写真補足：
名古屋テレビ塔(株)提供

左下：
開業初日の名古屋テレビ塔
右：
現在の名古屋テレビ塔

2018年 3月 3日(土) 午後1時 ~ 午後4時50分

主催  中部産業遺産研究会 The Chubu Society For The Industrial Heritage

共催  NAGOYA TV TOWER 名古屋テレビ塔 名古屋テレビ塔株式会社

■会場 栄ガスビル5階 キングルーム

〒460-0008 名古屋市中区栄 3-15-33

地下鉄ご利用の場合 *ご来場は公共交通機関をご利用ください。

【東山線・名城線】「栄」駅下車 西改札口より三越方面サカエチカ 6 番出口
徒歩 5 分

【名城線】 「矢場町」駅下車 北改札口より 6 番出口 徒歩 3 分



■後援: 愛知県教育委員会・名古屋市教育局・産業考古学会・日本産業技術史学会・一般社団法人日本機械学会
一般社団法人中部産業連盟・公益財団法人中部圏社会経済研究所・一般社団法人中部経済連合会
公益社団法人日本技術士会中部本部・名古屋工業大学ごきそ技術士会

＜名古屋テレビ塔の新たな旅立ちーランドマークとしてのこれまでとこれからー＞

名古屋テレビ塔は、昭和28年(1953年)9月から着工され、翌29年(1954年)6月竣工開業した日本初の集約電波塔です。戦後復興のシンボルでもあるこの塔は、名古屋中心部のランドマークとして欠かさないものになり、多くの市民に親しまれています。この構造設計者 内藤多仲博士は、耐震構造の父と称され、大正期の関東大震災にも耐えた歌舞伎座や、戦後の東京タワーも含めて生涯に60以上の塔を構造設計し、塔博士とも称されます。

名古屋テレビ塔は、平成23年7月24日には「テレビ塔」としての役割を終えましたが、国の登録有形文化財にも登録されており、価値の高い存在です。そのため、新しい耐震基準に適合させる改修免震工事が計画されています。その準備の中で多数の資料が再認識されました。今回、この資料調査を通して、内藤多仲博士の足跡を含め、私たちは名古屋テレビ塔の記録継承すべき歴史について認識を深めたいと思います。そして、今後の修復や保存、さらに活用の仕方などを、参加者のみなさんと共に考えましょう。

■プログラム 12:00～ 受付開始 キングルーム協受付・案内 12:45～入場

13:00～ 開会挨拶 中部産業遺産研究会 および 名古屋テレビ塔株式会社

13:20～ 講演1 「名古屋テレビ塔のあゆみ

ー内藤多仲博士の足跡と再発見資料研究の中間報告」

講師 夏目 欣昇氏 建築・デザイン分野 准教授、大嶽 伸氏 院生(名古屋工業大学)

14:30～ 講演2 「名古屋テレビ塔の価値を見つける ー創建の歴史と技術的価値ー」

講師 西澤 崇雄氏(日建設計 エンジニアリング部門 構造設計部 工学博士)

15:20～ 講演3 「名古屋テレビ塔の価値を守る ー免震化改修とデジタル活用ー」

講師 若林 亮氏(日建設計 執行役員 設計部門代表)

16:00～ 質疑応答・パネル討議 会場からの意見交換 など

コーディネータ 水野 信太郎氏(会員 北翔大学 生涯スポーツ学部 教授)

16:45～16:50 閉会挨拶

17:30～ 懇親会(事前申込者のみ) 会場:「しら河」 栄ガスビル 地下1階

■シンポジウム参加費 1,500 円 (一般:講演報告資料集の代金 1,000 円を含む)

(学生:参加費無料。講演報告資料集を必要とする場合は、1,000 円)

(中部産業遺産研究会会員・後援団体関係者:1,000 円)

■懇親会参加費 講師以外の方 5,000 円

■テレビ塔内見学会 当日の午前、10:00～と 10:30～の 2 回に分け1回 30 分 20 名(合計 40 名まで予約)

*予約多数の場合、1週間前までに抽選し連絡します。テレビ塔入場料金500円を当日いただきます。

■申込方法 1) 郵送での申込 ①氏名、②一般・学生・会員の別、③連絡先(電話又はメールアドレス)

④所属団体等、⑤懇親会参加の有無、⑥午前見学会予約希望有無を記述ください。

実行委員会担当に郵送＜宛先＞〒470-0213 愛知県みよし市打越町九蔵釜 93 加藤真司

2) ホームページでの申込の場合 <http://csih.sakura.ne.jp/nitigi.html>

ここから参加申し込みフォームを開いて申し込みください。

*個人情報、本シンポジウム運営のみに使用します。定員に余裕があれば当日参加も受付けます。

■参加費の郵便振込 口座番号:00880-2-83831 口座名称:シンポジウム「日本の技術史をみる眼」

*振込む時間が取れない場合は、当日受付で支払いを受付けます。

■定員 シンポジウム:最大190人(会場の定員)、懇親会:24名(定員になり次第締め切ります)

■問合せ先 中部産業遺産研究会ホームページ <http://csih.sakura.ne.jp/>

シンポジウムの問合せ先 シンポジウム実行委員会事務局 八田 健一郎

E-mail:kenhatta@hm4.aitai.ne.jp TEL:090-9222-3285(夜間・休日) または、080-6986-5320(平日昼間)